



フューネラルフラワー

I.F.P.E.代表
アトリエベルファム主宰

小路博子



2011年の12月に母を亡くした。パーキンソン病で歩行が困難となった母を苦楽園の自宅に引き取り、5年半の間食事をはじめ身の回りの世話をした。ちょうどそのタイミングで六本木ヒルズでの展示会やパリ研修、リーガロイヤルホテル大阪での展示会等仕事が忙しくなり、やむなく母をショートステイに何度も預けなくてはならない日々が続いた。母は私の仕事の邪魔にならないようにとずいぶん気を使っていた。私はそんな母の想いを気遣いながらも、次々に舞い込む仕事をこなし、常に母の介護と仕事の狭間で思い悩みながら過ごしていたが、その悩みを解消する間もなく、やがて母との別れを迎えた。母が亡くなった時は、ちょうど大阪のカルチャーの時で、急いでかけつけたがすでに意識はなく、そのまま息を引き取った。涙が止まらなかった。“もっと話しがしたかった。母ともう一度会いたい”と…また、忙しさにかまけて、十分なお世話もできなかったのではないかと。ああもしてあげればよかった、こうもしてあげればよかったと悔やまれる事が多かった。特に喪主を務めた葬儀では、さまざまなことを手がけなければならず、プリザーブドフラワーの仕事をしているにもかかわらず、母のために葬儀のお花を作ってあげられなかったことが一番の後悔であった。そのことから“フューネラルフラワー”を勉強したいと強く思い、フューネラルフラワー協会を訪ね「仏華デザイナー」の資格を取得した。

“フューネラルフラワー”とは日本ではまだ聞き慣れない言葉だが、仏事に使用する花の総称であ

る。2013年には以前からお花を教えていた生徒に加え、4つのカルチャーセンターでお盆やお彼岸にあわせた「仏花特別講座」を行った。昨年の夏は特に暑く、生花の仏花がすぐに枯れてしまうことに皆さまお困りだったので、プリザーブドフラワーを使った仏花は、レッスンにいらした多くの方に大変喜んでいただけた。ご遺族の方の心のケアにもなれたのではないかと考えている。そして何より、亡くなった母が「皆さんのお役に立てて良かったね」と微笑んでいてくれるようにと思え、心は救われた。また知識をもっと広げるため、終活カウンセラーの資格も取得した。2014年も引き続き仏花講座を行っている。これからもプリザーブドフラワーとアーティフィシャルフラワーで制作する仏花をもっともっと世の中に広めていきたいと願っている。

プロフィール

1995～98年 パリ7区「エコールフランセーズ・ド・デコレーション・フローラル」で学ぶ

2006年 I.F.P.E. (パリ・ヨーロッパスタイル花・芸術学院) 設立

アトリエベルファム主宰

フューネラルフラワー協会仏華デザイナー

終活カウンセラー

デコパージュ美術工芸協会認定講師

日本バイオフィLOWER協会認定講師

<http://ifpe.jp>